

学級通信のすすめ ～学級通信を学級づくりに生かす～

1. 学級通信は出す方がいいか、出さなくてもいいか

- ・学級通信の発行は、子どもも保護者も喜ぶ。⇒ならば出したい。
- ・モンスターペアレントは、学級の様子を知らない。⇒だから学級通信で知らせる。
- ・教師は書くことで、子どもを再発見する。⇒出すことで、子どものいい所が見えてくる。
- ・どこかのクラスが出すと他のクラスも出さないといけなくなるから、学級通信は出さない方針と学年で統一しよう、と言うベテラン教師が稀にいるが、それは最悪の先輩、楽しくない学年団。

2. 学級通信に何を書くか

- ・何を書いてもいいが「お知らせ通信」的ばかりでは、やがて読んでもらえなくなる。
- ・基本は、クラスの出来事、自分の事、自分たちの事が書かれていることが大事。
- ・〇班とまとめないで、山田君、安田さんというように個人の名前が書かれる方がうれしい。
- ・先生が見つけた「いい事」「気づいた事」「気になる事」などを具体的に書く。
- ・子どもの作文、保護者の連絡帳、授業の記録も書いていく。
- ・時には全員が載るように、一人ひとりのめあてや一言感想、また係活動のメンバーも書く。
- ・家庭訪問の時間一覧表や個人懇談会の時間表は、意外に役立つ。(これも1号(笑))

3. 学級通信を書くことの効用

- ・教師が、子ども一人ひとりや学級をよく見るようになる。(子ども理解)
- ・子ども同士が、お互いを知るようになる。(相互理解、友情、優しさ)
- ・いい事が紹介されると、自分を好きになる、クラスを好きになる。(自尊感情)
- ・学級や我が子の様子が家庭に伝わり、保護者が安心する。保護者が我が子を褒める(信頼、愛情)
- ・仲間がつながると授業が変わる。(授業の改善、学力の向上)

4. 学級通信が、学級づくりにつながっていく

- ・学級通信の内容は、担任の生き方や願いが反映されていくもの。「私はこんな学級をつくりたい」
- ・学級目標と学級通信はリンクしていくもの。
- ・学級通信を読むことによって、子どもたちは、
「自分に気づく」「友だちに気づく」「学級に気づく」のである。
そして「気づき」⇒「築き」になっていく過程、それが「学級づくり」である。

5. 学級通信を長く続けるコツは

- ・書く用紙は小さくする B4用紙よりB5(A4)用紙が書きやすい。
B4で週に1枚出すなら、B5で週に2枚出す方が絶対にいい。その方が子どもも喜ぶ。
- ・挨拶文やカットや写真は凝らない。文だけでもOK。箇条書きでもOK。
- ・「あとで書こう」「明日書こう」はダメ。「今書こう」「今日書こう」で、すぐに書く習慣を。
- ・目標は、年間100号。つまり週2ぐらいのペースは続けたい。すると200号も夢ではない

6. 学年末には、学級通信を1冊にまとめる

- ・紙ファイルに綴じた学級通信は、やがてなくなっていくが、しっかり冊子になっている学級通信は子どもたちは保存する。また背表紙に学級通信名を入れておくと、本棚で光る存在になる。
- ・しんどくなった時に、学級通信を読み返すことでまた元気が出る。心の銀行の貯金になる。
- ・同窓会に持ってくる子がいる。それをみんなでワイワイガヤガヤ読みながら笑顔が広がる。